

いま、カナダの子どもの本は？ - カナダ総督児童文学賞受賞作品 2010～2017 から見る -

白井 澄子 講師（白百合女子大学人間総合学部児童文化学科教授）

I. カナダの歴史・社会概観—建国 150 周年を迎えたカナダ

II. 児童文学誕生と発展の流れ

1. 黎明期（19 世紀半ば～20 世紀初期）

Canadian Crusoes (1952) Catherin Parr Traill.

（森林地帯で迷子になった 3 人の若者のサバイバル物語。インディアンとの関わりが大きな鍵に。）

『シートン動物記』 *Wild Animals I Have Known* (1898) Earnest Thompson Seton.

（「オオカミ王ロボ」など野生動物の伝記。）

『赤毛のアン』 *Anne of Green Gables* (1908) Lucy Maud Montgomery.

（孤児で赤毛の少女アンが巻き起こす騒動と、家族を求める物語。）

Golden Pine Cone (1950) Catherine Anthony Clark.

（カナダ最初の本格的ファンタジー。白人の兄妹がインディアン、動物、不思議な精の住む別世界を冒険する。）

2. 低迷期（1950～60 年代）

The Republic of Childhood (1967) Sheila Egoff.

（カナダ児童文学興隆のきっかけを作ったカナダ児童文学研究書。）

3. 低迷期からの脱出（1970 年代）

Mary of Mile 18 (1971) Ann Blades.

（北部の僻地で暮らす家族と少女が、オオカミの襲来を防いだエスキモー犬の子犬を家族に迎える。）

Jacob Two-Two Meets the Hooded Fang (1976) Mordecai Richler.

（男の子ジェイコブ・ツー・ツーが元プロレスラー牙頭巾の正体をあばく、ユーモア作品。）

『六月のユリ』 *Underground to Canada* (1977) Barbara Smucker.

（アメリカの奴隷制を逃れて「地下鉄道」を利用し、カナダに逃げ延びる黒人少女のサバイバル。）

Hold Fast (1978) Kavin Major.

（田舎街を舞台に孤児になった少年が自分の居場所を求める物語。カナダ YA 小説の最初。）

4. 児童文学の広がりや深まり（1980～2000 年）

多文化社会

『イシスの灯台守』 *The Keeper of the Isis Light* (1980) Monica Hughes.

（SF.地球からの移民を受け入れる惑星に先に赴いた先発隊生き残りの少女と移民の衝突。）

Angel Square (1984) Bryan Doyle.

（オタワにある公園 Angel Square を舞台に繰り広げられる、様々な国からの移民少年たちのぶつかり合い。）

『ナオミの道』 *Naomi's Road* (1986) Joy Kogawa.

（第二次世界大戦時に敵国民として強制収容所に送られた日系カナダ人の悲劇。）

〈参考〉『失われた祖国』 *Obasan* (1981)（先に出版された同テーマの大人版）

子ども・若者の日常

『自由研究 〈赤ちゃん〉』 *Baby Project* (1986) Sarah Ellis.

（赤ちゃんの誕生と突然死。カナダのごく普通の家族を襲った振動を少女の目を通して描く。）

The Maestro (1995) Tim Wynne-Jones.

（奥地に住む少年と父との葛藤、自分探しの旅。カナダの孤高のピアニスト、グレン・グールドへのオマージュ。）

歴史を生きた子どもたち

Sky Is Falling (1989) Kit Pearson.（第二次世界大戦時のイギリスからカナダに疎開した姉弟の物語。3 部作。）

絵本の広がり

- 『ズーム海をゆめみて』 *Zoom at Sea* (1983) Tim Wynne-Jones.
(猫ズームの冒険 3 部作。マリアの不思議な力で普通の家が海や北極に変わり、ズームを冒険に誘う。)
Chin Chiang and the Dragon's Dance (1984) Ian Wallace.
(中国系カナダ人少年の中国文化の継承と自分探しを描いた絵本。)
Nothern Lights, the Soccer Trails (1993) Michael Kusugak.
(イヌイットの作家による最初の絵本。イヌイットの言い伝えと現代的スポーツを組み合わせた。)
Ghost Train (1996) Paul Yee.
(カナダ大陸横断鉄道建設時に労働力として大量投入された中国移民の悲劇と、霊を吊う若い女性画家。)

ファンタジー

- The Root Cellar* (1981) Janet Lunn.
(現代のカナダから 1860 年代アメリカの独立戦争時代へとタイムスリップした少女が見た歴史の一コマ。)
『床下の古い時計』 *A Handful of Time* (1987) Kit Pearson.
(強い母と正反対の大人しい少女が、母の少女時代にタイムシフト。母の別の面を知り受け入れる。)
『銀翼のコウモリ』 *Silverwing* (1997) Kenneth Oppel.
(太陽を見たことでフクロウの怒りをかかった少年コウモリが、フクロウとコウモリの壮絶な戦いを引き起こす。少年コウモリの冒険と成長を扱うヒーローもの。原作は 4 巻。邦訳は 3 巻まで。)

弱者へのまなざし

- 『ぶきっちょアンナのおくりもの』 *From Anna* (1972) Jean Little.
(弱視の障害をもつアンナは兄姉に馬鹿にされているが、クリスマスに自分一人で贈り物を作り驚かせる。)
『生きのびるために』 *The Breadwinner* (2000) Deborah Ellis.
(女性蔑視のタリバン政権下のアフガニスタンで、家族を支えるために男装して食糧を得る少女。)

III. 2010~2017 年度カナダ総督文学賞（児童文学部門）受賞作品より

物語部門

- Fishtailing* (2010) Wendy Phillip.
(居場所と友人を求める高校生たちの、嘘、裏切り、いじめ。自傷でつながる危険な友人関係を自由詩で描く。)
From Then to Now (2011) 文 Christopher Moore, 絵 Andrej Krystoforski.
(世界の歴史をコンパクトにわかりやすく紹介。しかし、原爆についての記述なし。)
(参考) 『フランシュタイン家の双子』 *This Dark Endeavour* (2011) Kenneth Oppel. (次点)
(『フランケンシュタイン』前日譚。双子少年の愛情、葛藤、冒険、死、再生願望。)
The Reluctant Journal of Henry K Larsen (2012) Susin Nielsen.
(ある事件で心に傷を負った少年の日記。自己を振り返る日記から次第に兄に関する事実が浮上。いじめ、死。)
The Unlikely Hero of Room 13 (2013) Teresa Toten.
(脅迫神経症の少年の治療グループでの経験。一目ぼれした年長の少女とのロマンス。)
When Everything Feels Like the Movies (2014) Raziel Reid.
(ゲイの少年の生きにくい世界を扱う。高校は決められた役を演じる映画のよう。だが、彼の居場所はない。)
The Gospel Truth (2015) Caroline Pignat.
(18 世紀のヴァージニアを舞台に奴隷少女を通して人権を問う。少女、奴隷所有者、小鳥の 3 つの視点による物語詩。)
Calvin (2016) Martine Leavitt.
(統合失調症に悩む男子高校生が、自分を取り戻すため、勝手に同行する女子学生と共に旅に出る。現実と非現実が微妙に混合する作品。)
Marrow Thieves (2017) Cherie Dimaline.
(S F.先住民を抹殺する世界。人口過剰で荒廃した地球。人々は先住民がもつ marrow (生きる活力) を奪いにかかると。)

絵本部門

Cats Night Out (2010) 文 Caroline Stutson, 絵 Jon Klassen.

(陽気なネコたちが、歌い、踊りながら町中を移動する楽しい絵本。)

(参考) 『どこいったん』 *I Want My Hat Back* (2011) Jon Klassen.

(帽子をなくしたクマと、あやしいウサギ…。ホラーと笑いが混じるクラッセンの絵本。)

Ten Birds (2011) Cybele Young. (ユニークでウィットに富む数の絵本。)

『きょうはおおかみ』 *Virginia Wolf* (2012) 文 Kyo Maclear, 絵 Isabelle Arsenault.

(繊細で感情が激しすぎる妹を姉は以外な方法で支える。英国の作家 V. ウルフと姉のあたたかい絆を描く。)

Northwest Passage (2013) 文 Stan Rogers, 絵 Matt James.

(カナダのフォーク歌手 Stan Rogers の詩 “Northwest Passage” からインスピレーションを受けて作られた絵本。大航海時代に始まった北西航路発見の壮絶な冒険と夢。)

This One Summer (2014) 文 Jillian Tamaki, 絵 Mariko Tamaki.

(グラフィックノヴェル。毎年、海辺の町で夏を過ごす少女が体験する、友情、家族の秘密、噂と真実、成長など、YA 小説の王道的な内容。)

(参考) 『GIRL』 *Skim* (2008) Jillian & Mariko Tamaki.

(日系カナダ人の少女が、白人中心の女子高で体験する、異文化摩擦、同性愛。『GIRL』は邦題。)

『おはなをあげる』 *Sidewalk* (2015) 文 Jon Arno Lawson, 絵 Sydney Smith.

(街に行く父と幼い娘。父は携帯電話でずっと話し中。娘は道端の雑草の花を摘み、人々にプレゼントする。)

Tokyo Digs a Garden (2016) 文 Jon-Erik Lappano, 絵 Kellen Hatanaka.

(森が失われた都会に住む少年トーキョーがお婆さんに不思議な種をもらい、それを撒くと、たちまち大きな木に育ち、しだいに町全体を覆ってしまう。)

When We Were Alone (2017) 文 David Alexander Robertson, 絵 Julie Flett.

(residential school に入れられたインディアンの祖母が、そと自分たちの文化を守った経験を孫に語る。)

(参考) residential school に関する書籍 (先住民に白人化教育を施すための寄宿学校)

No Time to Say Goodbye (2001) Sylvia Olsen with Rita Morris and Ann Sam.

(家族と引き離されて入学した residential school と、そこでの経験。)

Shi-shi-etko (2005) 文 Nicola I. Campbell, 絵 Kim LaFave.

(residential school に入る少女に、祖母は伝統文化を忘れないように贈り物をする。)

Broken Circle: The Dark Legacy of Indian Residential Schools (2010) Theodore Fontaine.

(著者の residential school での体験談。一般書。)

2010~2017 年の受賞作品をテーマ別にグループ化

1. 子ども・若者の日常と心の中

Fishtailing (2010) Wendy Phillip.

The Reluctant Journal of Henry K Larsen (2012) Susin Nielsen.

The Unlikely Hero of Room 13 (2013) Teresa Toten.

When Everything Feels Like the Movies (2014) Raziel Reid.

This One Summer (2014) 文 Jillian Tamaki, 絵 Mariko Tamaki.

Calvin (2016) Martine Leavitt.

2. 多文化社会

Marrow Thieves (2017) Cherie Dimaline.

When We Were Alone (2017) 文 David Alexander Robertson, 絵 Julie Flett.

(参考) *Shi-shi-etko* (2005) 文 Nicola I. Campbell, 絵 Kim LaFave.

No Time to Say Goodbye (2001) Sylvia Olsen with Rita Morris and Ann Sam.

3. 歴史

From Then to Now (2011) 文 Christopher Moore, 絵 Andrej Krystoforski.

Northwest Passage (2013) 文 Stan Rogers, 絵 Matt James.

The Gospel Truth (2015) Caroline Pignat.

<参考> 『六月のユリ』 *Underground to Canada* (1977) Barbara Sumucker.

4. ファンタジー

『フランシュタイン家の双子』 *This Dark Endeavour* (2011) Kenneth Oppel. (次点)

Calvin (2016) Martine Leavitt.

5. ユーモア

Cats Night Out (2010) 文 Caroline Stutson, 絵 Jon Klassen.

Ten Birds (2011) Cybele Young.

<参考> 『どこいったん』 *I Want My Hat Back* (2011) Jon Klassen.

6. 自然と都会生活

『おはなをあげる』 *Sidewalk* (2015) 文 Jon Arno Lawson, 絵 Sydney Smith.

Tokyo Digs a Garden (2016) 文 Jon-Erik Lappano, 絵 Kellen Hatanaka.